



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.12

2011年7月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

ただひたすらに

私達が農場に来てから1年と数ヶ月が過ぎました。その間に農場には多くの方々に来て頂き、励まされてきました。皆様の期待に応えるように頑張っています。

5月下旬に、ワタミ手づくりマーチャングアイジング(株)から、お二人の方に指導にきて頂きました。そして農場を一目見るや否や「農場の土の消耗を防ぐ必要がある」と指摘を頂きました。

カンボジアの気温は1年を通して35度前後、カンカン照りの日が続く日もあれば雨の降る日もあります。そのような環境の中にあると、土が蓄えた有機物等がなくなってしまうからです。

先月の通信では「3ヵ年の事業計画決定!」と大々的に皆さんにお伝えしたわけなのですが、上記のような見解もあり、計画に大幅な修正が入りました。

1. 2011年度 1ヘクタールモデル区内にある圃場を緑にする
緑肥となる作物数種類を試験栽培し、どこでも育つものを選び翌年につなげます。
2. 2012年度 1ヘクタールモデル区内の有機物を自給する
栽培した緑肥に家畜の糞を加え畑の土を改良していきます。土が改良できれば食用の作物も栽培が可能になります。
3. 2013年度 1ヘクタールモデル区内の循環型農業の完成
作物用の肥料や家畜用のエサまで全て自給します。食用作物を育てることができるようになれば、循環型農業は完成です。

この計画は、「1ヘクタールモデル区を完成させる」ことを目的としています。

今成すべきこと、それは1haの畑・水田1面が米や野菜で覆われている状態にすることです。そのために、今まででよく育ったクウシンサイとカンボジアで育てられている稲を播種し、その他に比較試験用としてマメ科、イネ科の作物の栽培を始めました。



6月上旬に播いたクウシンサイはここまで成長しました。



自分たちで造った鶏小屋です。

6月上旬、渡邊代表理事が来場されました。今回は、新しくなった計画の説明はもちろんのこと、私達とともに作業をしてくださるということから楽しみにしていました。

作業としては、水稻の籾の種まき、キャッサバの植え付け、トラクターでの畑おこし、鋤を使つての畝作り、種播きを行いました。

この日は天気が良く、作業をした頃の気温は、なんと約40度でした。カンボジアに住んで1年以上になる私達でもこのような天気の日には作業が辛いというのに、汗ビッシヨリになりながらも慎重に種を播き、力いっぱい鋤を振り下ろして作業をしました。

播いた籾と種、植え付けたキャッサバも、まだ小さいですが、芽を吹き育っています。特に、水稻の種籾に関しては、7月中旬頃に昨年同様、「夢追う子どもたちの家」の子どもたちと田植えをするので、大事に育てようと思えます。

作業を終えると、首都プノンペンへ移動しました。代表理事からの提案で、SAJスタッフミーティングをするためでした。カンボジアに住む日本人スタッフ全員が一緒に集まるのは初めてのことでした。それぞれの仕事内容やこれからの目的を確認しあうことが出来たほか、私達スタッフからの提案にも耳を傾けていただきました。

このような場を設けていただいたおかげで気持ちが引き締まったのは私だけではなかったと思います。

6月下旬には、33人ものワタミグループの方々が来場されました。SAJの活動に関心を持ち、一人ひとりがそれぞれ見たいものや知りたいことを抱いてカンボジアに来られたようです。

忙しいスケジュールと慣れない環境の中でも私が説明を始めるとどの方も真剣に聞き入ってくださっていました。農場を1周し、バスに乗り込むまでの短い時間でさえも質問が絶えなかったくらいです。

お客様が来場されるたびにお客様に私達の活動を知っていただくこととご説明をさせていただいていますが、結局最後には私達が励まされ「また来ます。がんばってください！」という元気な声に勇気付けられています。

最後に、農場の造成具合についてお伝えします。

まずは水田や畑の区画を整備し池を掘るという造成作業ですが、雨季に入り地面が緩んでしまうことから少々作業が遅れています。それでも先日最後の池が掘り終わりました。今は水田として設けた区を水が均一に入れられるよう平らにしています。

2つの業者が断念してしまった井戸も先日3社目の業者との契約をようやく終え、作業は7月1日から始まります。

農場の造成は詰めの段階に入ってきており、井戸の造成についても慎重に進めて行きたいと思っています。未だ言葉の壁は大きく、私達の要望どおりにはいかないことが多々ありますが、だからこそ今以上に業者との連絡や相談は密にし、これから先何十年も続いていくSAJ Farmの農場を作っていこうと思えます。



畑仕事を終え、代表理事と事務局長を囲んで記念撮影です



代表理事が植えたキャッサバです。こんなに大きくなりました。

編集後記

先日種まきをしたばかりだと思っていたものが、今では青々とした緑色を湛えています。いまはそれが緑肥となっているわけですが、それが今度は水稻となり、緑から黄金色へ、そして子どもたちの笑顔へと変わる…。そんなことを想像せずにはいられないこのごろです。

飯島